

受付印

年	月	日	法人番号	申告年月日
---	---	---	------	-------

年 月 日 新 潟 県 燕 市 長 様 法 人 番 号 申 告 年 月 日

所在地 <small>燕市が支店等の場合は本店所在地と併記</small>	(電話)		この申告の基礎 1. 法人税の 年 月 日 の修正申告書の提出による。 2. 法人税の 年 月 日 の更正・決定・再更正による。
(ふりがな)	事業種目		
法人名	期末現在の資本金の額 又は出資金の額 ()		
(ふりがな)	期末現在の資本金の額 及び資本準備金の額の合算額		
代表者 氏名	(ふりがな) 経理責任者 氏名	期 末 現 在 の 資 本 金 等 の 額	

年 月 日から 年 月 日までの 事業年度分又は 連結事業年度分 の市民税の 申告書 ※

摘 要		課税標準	税率(%)	法人税割額
(使 途 秘 匿 金 税 額 等) 法人税法の規定によって計算した法人税額	①			
試験研究費の額等に係る法人税額の特別控除額	②			
還付法人税額等の控除額	③			
退職年金等積立金に係る法人税額	④			
課税標準となる法人税額又は個別帰属法人税額及びその法人税割額 ①+②-③+④	⑤	0 0 0		
2以上の市町村に事務所又は事業所を有する法人における課税標準 となる法人税額又は個別帰属法人税額及びその法人税割額 $(\frac{⑤}{23} \times 24)$	⑥	0 0 0		
市民税の特定寄附金税額控除額	⑦			
税額控除超過額相当額の加算額	⑧			
外国関係会社等に係る控除対象所得税額等相当額又は個別控除対象所得税額等相当額の控除額	⑨			
外国の法人税等の額の控除額	⑩			
仮装経理に基づく法人税割額の控除額	⑪			
差引法人税割額 ⑤-⑦+⑧-⑨-⑩-⑪又は⑥-⑦+⑧-⑨-⑩-⑪	⑫			0 0
既に納付の確定した当期分の法人税割額	⑬			0 0
租税条約の実施に係る法人税割額の控除額	⑭			
この申告により納付すべき法人税割額 ⑫-⑬-⑭	⑮			0 0
均等割額	算定期間中において事務所等を有していた月数	月	円 × $\frac{⑮}{12}$	⑰ 0 0
	既に納付の確定した当期分の均等割額			⑱ 0 0
	この申告により納付すべき均等割額 ⑰-⑱			⑲ 0 0
この申告により納付すべき市民税額 ⑮+⑲				⑳ 0 0
⑳のうち見込納付額				㉑
差 引 ⑳-㉑				㉒

※従業者数は必ず記載してください

関与税理士名

燕市内に所在する事務所、事業所又は寮等		分割基準		燕市分の均等割に 用いる従業者数
名 称	事務所、事業所又は寮等の所在地	当該法人の全従業者数	左のうち燕市分の 従業者数	人
				人
合 計		人		人

指場 定合 都の 市に ⑩ 申の 告計 する算	区 名	区 コード	月数	従業者数	均等割額	決算確定の日	年 月 日	法人税の申告書の種類	青色・その他
						解散の日 <td>年 月 日 <td></td> <td></td> </td>	年 月 日 <td></td> <td></td>		
					残余財産の最後の分配又は引渡しの日 <td>年 月 日 <td>翌期の中間申告の要否 <td>要・否</td> </td></td>	年 月 日 <td>翌期の中間申告の要否 <td>要・否</td> </td>	翌期の中間申告の要否 <td>要・否</td>	要・否	
					この申告が中間申告の場合の計算期間 <td>年 月 日から 年 月 日まで</td> <td>法人税の申告期限の延長の処分の有無</td> <td>有・無</td>	年 月 日から 年 月 日まで	法人税の申告期限の延長の処分の有無	有・無	
					還付を受けようとする金融機関及び支払方法	銀行	支店		
					還付請求税額	口座番号(普通・当座)			
					法第15条の4の徴収猶予を受けようとする税額				

(電話)